

2022 通常総会特別講演

「石狩低地帯の縄文時代：珪藻・花粉・考古のはなし」

2021年、北海道南部から東北北部の縄文遺跡群がユネスコの文化遺産に登録されました。12,000年から2,500年前の縄文時代はどのような時代だったのでしょうか？今回、石狩低地帯について微化石から当時の自然条件を復元し、その中での人々の暮らしを想像することにしました。

主催：非営利活動法人 北海道総合地質学研究センター

日時：2022年5月15日（日曜日） 開場：12：50，開演 13：10

会場：札幌エルプラザ（札幌市北区北8条西3丁目） 中研修室 A・B（4階）

参加費：無料

演題：花粉化石からみた縄文時代の始まりからの環境変遷の解析について （35分）

講演者：星野 フサ（北海道大学総合博物館：ボランティア，北海道総合地質学研究センター）

発表趣旨：厚真川河口部の AZK-101 コアと東野幌湿原 10m コアを帯広市伏美コアでの現植生と花粉分析の比較で読み解く。

演題：縄文海進と石狩低地帯の形成：珪藻化石からのアプローチ （35分）

講演者：嵯峨山 積（北海道総合地質学研究センター，アースサイエンス株式会社）

発表趣旨：縄文時代の海水の流入により形成された石狩低地帯の湖を推定し、平野の形成について発表する。

演題：ヒトの環境適応の視点から見た石狩低地帯 （35分）

講演者：工藤 義衛（いしかり砂丘の風資料館）

発表趣旨：縄文海進以降の石狩低地帯で起こった環境変化にヒトがどのように適応していったのかを考古学から見ていく。